

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 1 区分
 【発行日】平成25年5月9日 (2013.5.9)

【公開番号】特開2008-180219(P2008-180219A)
 【公開日】平成20年8月7日 (2008.8.7)
 【年通号数】公開・登録公報2008-031
 【出願番号】特願2008-7636(P2008-7636)
 【国際特許分類】

F 0 1 D 5/02 (2006.01)

F 0 4 D 29/38 (2006.01)

F 0 2 K 3/04 (2006.01)

F 0 2 C 7/00 (2006.01)

【 F I 】

F 0 1 D 5/02

F 0 4 D 29/38 C

F 0 2 K 3/04

F 0 2 C 7/00 D

F 0 2 C 7/00 A

【誤訳訂正書】
 【提出日】平成25年3月25日 (2013.3.25)
 【誤訳訂正 1】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】0 0 0 8
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【0 0 0 8】

翼の破損が発生すると、翼根元部によってディスクに加わる応力は、ディスクの下流側端部において最大になり、翼間プラットフォームの取付フランジの空洞の局所的塑性変形を発生し、これにより、ディスクおよび翼間プラットフォームに加えられる応力を制限する。このように、翼およびプラットフォームは、エンジンが停止されるまで所定の位置に保持され、これにより、ターボ機械の重大な破壊を回避する。

【誤訳訂正 2】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】0 0 2 6
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【0 0 2 6】

翼間プラットフォームの取付フランジ 3 6 に空洞 3 4 を設けることにより、空洞は翼の破損時に塑性変形可能になる。翼に作用する引抜力は、空洞 3 4 の方向に向けられる。したがって背面フックに加わる応力は減少し、フックの破壊を防止し、翼を溝内の所定の位置に保持でき、ターボ機械が停止するまで、関連のプラットフォームをディスク 1 0 のフランジ 3 6 に固定して保持できる。さらに、正常動作では、寿命は翼根元部 2 0 の軸方向の機械加工（必要でなくなるため）に起因する磨耗によって制限されなくなる。